



新年あけましておめでとうございます

本年も皆様のご活躍をお祈り申し上げます

日頃より道守活動に励んで頂きありがとうございます。皆様の活発な道守活動によって、美しい道路づくり・活気ある地域づくりが実現していることを実感しております。

道守長崎会議のネットワークも随分拡大し、昨年の総会には100名を超える方々が参加されました。これも皆様の地道な道守活動や汗を流す姿が、市民の心を引き付けているのだと思います。また、昨年は「ながさき見守りたいプロジェクト」による長崎街道を活かした取り組みや「マイ・ツリー活動」、一昨年から継続して実施している「通り名」など、地域の方や行政と協働で取り組む活動が増えてきました。

道守や地域住民、企業、大学など多様な人や組織が、これまで行政が担うものと認識されてきた公の領域に一步踏み出し、地域の課題を共有し、共に話し合い、協働で解決していくための行動を実践していかなければなりません。これが「新たな公」であり、この「新たな公」を道守が中心となってつくっていきたくて考えております。本年は、「新たな公」をテーマに道守活動を展開していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

花いっぱい & X'mas ストリートプロジェクト in 新大工

平成21年12月5日（土）、長崎市馬町の国道34号植栽帯で「花いっぱい&Xmas ストリートプロジェクト in 新大工」を開催しました。

この「花いっぱい&Xmas ストリートプロジェクト in 新大工」とは、新大工商店街振興組合、NPO 道守長崎など市民団体と長崎河川国道事務所等で構成するプロジェクトチームが開いたもので、新大工町子ども会などの子ども達と一緒に、植栽帯にあるもみの木、通称『うまかツリー』下の花壇への花植え、周辺道路の清掃、『うまかツリー』への飾り付けを行いました。

イベント終盤には、買い物客や通行人など約千人が見守る中、子ども達によるクリスマスソング生演奏や田上長崎市長によるカウントダウンで、ツリーイルミネーションへの点灯式が行われ、大盛況に終わりました。



【イベントに駆けつけて下さった田上長崎市長】



～今月の「通り名」～

◆諫早地区

諫早市では、12月1日に4回目の「通り名を活かしたまちづくり」会議行いました。諫早市では、夏に大きなイベントが立て続けに開催されます。例えば8月に開催される地元の神社の『ぎおん祭り』は、御輿を担いだ子どもたちが諫早市中心部の様々な通りを練り歩きます。そこで、『ぎおん祭り』と「通り名」を組み合わせると何かできないかという意見が挙がりました。他には、8月の祭りまでは随分と期間が空くので、まずは市民に広く「通り名」を知ってもらうために、小さなイベントを積み重ねて、8月の祭りにつなげようという意見も出ました。

これらの意見を踏まえて、まずはできることから実践しようということで、2月にウォークラリーを開催することになりました。諫早

市には街のあちこちに「恵比寿様」の石像があります。各自治会で商売繁盛・まちの繁栄を願って“恵比寿様”を奉っており、地元の人たちは親しみを込めて「えびすさん」と呼んでいます。そのえびすさんを探すウォークラリーを「通り名」と組み合わせ実施することになりました。



【各自治会で大切に守られている“えびすさん”を探すイベントを行います】

◆佐世保地区

佐世保市では、三ヶ町商店街組合が中心となって「通り名」の取り組みを進めてきましたが、この度標識板の設置が完了しました。

12月28日にワークショップメンバーで、「通り名」の標識板を設置しました。年末の忙しい中多くの方が参加され、スムーズに作業が進んでいきました。設置された標識板は、港町、米軍の街など佐世保のイメージによく合い、街の人からは「オシャレな通り名ができて嬉しい」とか「道案内に活用していきたい」などの声があがっていました。



◆雪浦地区

雪浦地区では、12月から「通り名」標識板の製作に入りました。雪浦は自然に囲まれたのんびりとした町なので、その雰囲気に合わせて温もりを出すために、木材で標識板を作っています。木材の加工は、雪浦ウィーク実行委員会（吉村源太郎代表）を中心とした地域住民の手作業で行われ、標識板の文字は雪浦ウィーク実行委員会の画家タナカケシさんが描かれています。来月からは、標識板の設置作業に入っていきます。

西海市大島町で清掃・美化活動が行われました

平成21年12月7日、『環境美化を考える会』（田口昭子代表）の皆さんが、大島大橋入口で清掃・美化活動を行いました。この日は、『環境美化を考える会』の方51名が参加し、「大島を訪れる皆さんに気持ちよく年末年始を迎えていただきたい」という願いを込めて、大島の玄関口である大島大橋付近の除草や剪定、空き缶拾い等が行われました。

雑草が生い茂り、道路沿線の植木も伸びていましたが、清掃後には雑草がなくなり植木も整えられ、とてもスッキリと美しくなりました。お正月を故郷で過ごす人たちが、気持ちよく帰省できたようです。



「ながさき見守りたいプロジェクト」経過報告

「ながさき見守りたいプロジェクト」とは、道守や地域ボランティア団体、地域住民などが主体となって、地域資源を掘り起こし、地域住民自らがその地域の郷土を愛し、コミュニティーを醸成させるとともに地域活性化を促し、交流人口の増加を試みる取り組みです。この「ながさき見守りたいプロジェクト」を、東長崎地区の長崎街道沿線、雲仙市千々石町・小浜町で実施しています。

◆長崎街道「ばんこ」&「マップ」部会

12月16日（水）、長崎街道「ばんこ」&「マップ」部会を開催しました。

ばんこ部会では、ばんこのサイズや材質、設置について話し合われました。「ばんこの高さは、お年寄りが座っても楽に立てるような高さにしよう」とか「材質は、長崎県産のヒノキを使ったらどうか」などの意見が出されました。また、ばんこの設置については、商工会の協力のもと飲食店や小売店を対象に、このプロジェクトの主旨に賛同し、設置後の管理までして下さる店舗を公募することになりました。

マップ部会では、マップの素案を見ながら「吉田松陰の話も記載しよう」とか「昔の風景の写真を載せよう」等の議論がなされました。部会の中で「番所橋には江戸時代に眼鏡橋が架けられていた」という事実もわかり、参加者からは「地域の歴史は広く周知されていないが、眼鏡橋と関連があるとなれば興味が沸く」という意見も出ていました。このような面白い地域情報を発掘して、マップに記載していくことになりました。

「ながさき見守りたいプロジェクト」では、今後も「歩きたくなるような街道・歩いて楽しい街道」を目指して取り組んでいきます。

◆長崎街道 日見峠「ウォーク&植樹会」

平成21年12月27日（日）、「長崎街道日見峠ウォーク&植樹会」が開催されました。このイベントは、「ながさき見守りたいプロジェクト」の一環として NPO 長崎街道松並復元会（執行利博理事長）主催で行われました。

NPO 長崎街道松並復元会は、2008年1月から、諫早、大村、東彼杵など約20カ所で地域住民と協力して松を植樹したり、石畳を敷設したりして景観整備に取り組んでいます。これまで、県内各地に約600本の松を植樹されたそうですが、今回初めて日見峠での植樹が実現しました。この日は、小学生から70代のお年寄りまで約70名が参加しました。



【ばんこのサイズを検討する参加者】



【マップについて議論する様子】

はじめに、ガイドさんの解説で、日見トンネル付近から日見峠まで1時間かけて散策しました。長さ2メートルほどの石橋では「ゾウが石橋を怖がってなかなか渡ろうとしなかった」というエピソードや、日見峠の下を通る切り通しの道路は、日本で最初の有料道路だったという話を教えて頂きました。

また、日見峠入り口からは田上長崎市長も参加され、頂上に着くと盛大な植樹式が行われました。田上市長からは「地域づくりは、市民ができることからコツコツやっていくことがとても重要です。大人が一生懸命取り組んでいる姿を子どもたちが間近で見て、成長したときに自分たちも何かやろうという想いが生まれます。このような想いを未来に繋げていきましょう。」という心のこもったお言葉を頂きました。

日見峠頂上から約1キロにわたり、街道沿いに高さ50センチ程度の松やモミジ、クヌギなど約150本を植樹しました。参加者からは「一度は長崎街道を歩いてみたいと思っていたが、歩くだけでなく自分の植えた木まで残せてよかった」とか「街道にはゴミが多く捨てられていたので、キレイにして多くの人に知ってもらいたい」などの声があがっていました。

植樹の後は、ぜんざいを食べながらお疲れ様会を行いました。植樹によって街道がキレイになり、参加者の皆さんは「スッキリした気持ちで新年を迎えられる」と話しておられました。



【日見峠に登る参加者の皆さん】



【子どもたちと松を植樹する
田上長崎市長】



【参加者全員で記念撮影】



【皆さん一生懸命植樹してくださいました】



【たぬき絵画家の堤けんじさん】



【ぜんざいで乾杯〜♪】



Before



After



Before



After

【雑草が生い茂り視界も悪かったのですが、植樹によって美しい街道となりました。】

お問い合わせ
情報送付先

【道守長崎会広報担当】国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 調査第二課 沼野・浦田
住所：〒851-0121 長崎市宿町 316 番地 1
TEL：095-839-9861 FAX：095-839-9648 E-mail：numano-t8910@qsr.mlit.go.jp